

2012年度大阪女学院中学校・高等学校事業報告

I. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

1. キリスト教に基づく人間理解の深化

大阪女学院中学校・高等学校は女性が一人の人格として、何らかの方法で働く義務を悟り、正直に仕事をすることを誇りとし、日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く力のある人間を育むことを目指す。宗教教育については、長年の実績の積み重ねを踏まえた上で、キリスト教に基づく人間理解を深め、一人ひとりがかけがえのない存在であることの自覚を促し、生徒自らの生き方と他者とのかかわり方を学ばせる。また、入学後、保護者に対しても、学校への理解を深めてもらえるよう努める。

(1) 年間聖句 「主に望みをおく人は新たな力を得 鷲のように翼を張って上る。」

(イザヤ書40章31節)

(2) 礼拝 【中学校】 ・月、水、金 は中学1年、中学2年、中学3年合同でチャペル礼拝

・火、木、土 はクラス礼拝

【高等学校】 ・火、木、土 は高校1年、高校2年、高校3年合同でチャペル礼拝

・月、水、金 はクラス礼拝

・英語科英語礼拝 (年8回) OCC ホール

・英語礼拝 (年4回) チャペル

・特別礼拝 音楽礼拝(年3回)、イースター礼拝、母の日礼拝、

花の日礼拝、収穫感謝礼拝、クリスマス礼拝、伝道週間特別礼拝

(3) 修養会

J1 7月9日(月)～11日(水) 1泊2日 2班 会場 VIPアルパインローズビレッジ

主題 「隣人とはだれか」

講師 及川信先生(日本キリスト教団中渋谷教会牧師)

J2 7月9日(月)～11日(水) 1泊2日 2班 会場 舞子ビラ神戸

主題 「顔を上げて心で聴く」

講師 谷本仰先生(日本バプテスト連盟南小倉教会牧師)

J3 9月6日(木) 会場 学内ホールチャペル

主題 「失敗しただけ豊かになる」

講師 牧ロー二先生(聖公会 聖ヨハネ教会員)

S1 7月9日(月)～11日(水) 1泊2日 2班 会場 神戸市立フルーツフラワーパーク

主題 「大丈夫。神が一緒！」

講師 波多康先生(聖書キリスト教会協力牧師)

KIKIさん(ゴスペルシンガー)

S2 11月13日(火) 会場 学内ホールチャペル

主題 「すべて感謝」

講師 朴龍洙先生(在日大韓・京都教会牧師)

S3 7月9日(月)～10日(火) 1泊2日 2班 会場 ユニトピアささやま

主題 「君はそれで素晴らしい」

講師 佐々木拓也先生(単立エレベートチャーチ牧師)

ナイト de ライト (ゴスペルバンド)

(4) 伝道週間 9月24日(月)～9月30日(日)

主題講演講師 佐藤彰先生 (保守バプテスト同盟福島第一聖書バプテスト教会牧師)

(5) 宗教行事

3月11日(月) J・S サムエルさん (ゴスペルシンガーソングライター) コンサート

(6) 公開クリスマス 12月18日(水) 3回実施

(7) 中学校、高等学校 宗教行事感想文集「えのき」発刊

2. 建学の精神の再認識と再構築

女子校から共学に改組する学校が多い中、本校は女子教育を堅持し、建学の精神を再認識しつつ、本校の教育理念に基づいて、現代に生きる女子の教育を再構築する。

(1) 本校の建学の精神、沿革等をまとめた冊子『愛と奉仕』を、新入生全員に配布し、入学当初の聖書の授業を通して内容を理解させた。また、聖書を学ぶ集いをホール会主催で年間4回行い(計画では5回)、保護者に建学の精神、教育理念への理解を深めた。

(2) キリスト教学校フェアへの参加

6月3日(日) 於 大阪 YMCA 会館

大阪地区のキリスト教学校と協力し合いながら、準備を進め、受験予定者に対して建学の精神、教育理念を広めた。また、生徒によるボランティア活動の報告やフェア会場での募金活動を通して、キリスト教教育の特徴をアピールした。

(3) 女子中フェアへの参加

4月24日(火) 大阪新阪急ホテルにて

6月17日(日) 御堂会館にて

大阪地区の私立女子中学校が集まり、女子校の良い点について講演があり、女子校の意義を、受験生、保護者に伝えた。各校のブースでは、具体的な質問に丁寧に答えながら、学校に関心を持っていただくことができた。御堂会館のホールではハンドベル部が演奏を披露した。

II. 教育の内容

上記の教育理念を具現化するため、生徒一人ひとりに与えられた賜を生き、社会に貢献するための学力、協調性をもった行動力、自己と他者を大切にすること、人権意識、円滑な社会生活を営むための規範意識、そして世界平和を実現するための国際性を身につけることを目指し、以下の取り組みを行う。

1. 学力向上の取り組み

本校における一貫カリキュラムの成果と課題についての検討を更に進め、各教科の学力の向上と定着を図る。

(1) 学力検討委員会(年間7回)による成績推移の分析、対策の検討

(2) OJ ダイアリー作成

2013年度中学1年生への配布、導入にむけ、OJダイアリー(生活ノート)作成と使用方法について検討を行った。目標を掲げ、その達成に向けて計画、実行、振り返りを行う習慣をつけると同時に、スケジュール管理の訓練をするための教材としてのOJダイアリーを作成し、2013年度より、中学1年生徒全員に導入することとした。

(3) シラバス編纂

高校の新指導要領が実施される2013年度を機に、今後の6年一貫教育を各教科で検討し、シラバスを編

纂する。その準備として、2012年度現行のシラバスを各教科より集めた。

(4) 自主学習の時間

中学全校で土曜日 12:00～12:40 に自主学習プログラムを実施(年間 19 回/3 年目)。次年度も継続。毎土曜日に 3 限後、担任・副担任の先生方の監督で自身が決めた学習に取り組む。3 年間の成果について振り返りを行った。生徒たちは、クラスメートがいても、時間がくれば気持ちを切りかえて、集中して学習に向かうことが、自然にできるようになった。

(5) 高校希望者補習

昨年に引き続き、土曜講座 (S 1・2 希望者対象)、水曜講座 (S 3 普通科文系・英語科 I 型の希望者対象) を実施した。

(6) BB 講座

高校 2 年、3 年生を対象に有志の申し込みによる BB 講座を昨年に引き続き実施した。

継続的な取り組みであるが、さらに成果が上がるように方策を考えた。

①月に一度教材カウンセラーとして BB 講座担当者が来校、教材カウンセリングを行った。

②受講状況を知らせる通知を受講者各家庭に送った。

(7) 中学学力推移調査、高校スタディサポートの利用

各生徒のこれまでの成績推移(中学・高校 1 年生から蓄積されたデータによる)を踏まえて、今後の学習、目標についての担任面談を実施した。

2. 授業内容の充実のための取り組み

2週間時間割を開始して2年目を迎え、より円滑に授業が進められるように教師用アンケートをもとに精査、実行する。また、中学での英語、数学の学力アップを図るため、分割授業を導入する。

(1) 中学数学 習熟度別授業の実施

数学の学力を上げるため、全学年、代数の授業で 1 クラス 2 分割の習熟度別授業を行い、個々の生徒に応じた指導を目指した。

(2) 中学2年生英語 1クラス2分割少人数授業の実施

従来中学の英語については、全学年の AC の授業、中学3年英語演習の時間を1クラス2分割の少人数授業としているが、それらに加え、学力差が表れる中学2年生の英語の授業を、1クラス2分割の少人数授業とし、学力アップを計った。

(3) 調理実習室を改装し、設備を新しくした。これによって、より衛生的且つ機能的に実習することが可能となった。

3. 生徒の人権意識を深める取り組み

解放教育(人権教育)については、「私たちの人権感覚を問い直そう」～一人ひとりを大切にしよう～という教育目標の下で、生徒がお互いの存在を尊重しあうことが大切にされる解放教育を目指す。また世界の人権状況と人権獲得の歴史を学び、守り、発展させていく意味を考えさせ、各学年の成長過程に応じて、生徒自らの人権意識を深める取り組みをテーマを決めて行う。また、携帯電話・インターネットの扱いや、いじめの問題に対する生徒の問題意識を更に深める。

「私たちの人権感覚を問い直そう」～一人ひとりを大切にしよう～という教育目標の下で、各学年別年間目標をたて実施した。

(1) 学年別テーマ

中1「隣人を自分のように愛しなさい」～Love your neighbors as you love yourself～

中2「顔を上げて前向きに」～Listen to your hearts～心の輪を広げよう

中3「心を寄せて」

高1「民族って何」

高2「共生から共有へ ～社会のひずみからくる痛みをともに担おう～」

高3「社会の中で生活する障がい者について知り学ぶ」

(2) 中学平和を考える日

中学3年生の修学旅行平和学習感想文代表者発表と反戦平和映画「ひめゆりの塔」鑑賞

4. 生徒の生活全般に対する指導

生活指導については、中学・高校それぞれの発達段階を考慮しつつ、一貫した原則の下に生活全般について指導を行い、現代社会が生じさせる個々の問題に対し具体的な対応をしていく。特に、基本的な生活習慣・社会のルールを身に付けるよう指導し、時間、物の管理、服装や身だしなみ、礼儀、公共のマナーや美化等について、周りに配慮して行動できるように指導する。

2012年度は、特に登校中の安全、マナー指導に力を入れた。通学路が混み合う時間帯には、いくつかの道に分散して通学するよう指導した。登校時には、生活指導委員会を中心に全教職員で通学路に立ち、声をかけ指導を続けた。その結果、地域からの苦情は減少した。

また、正門前で保護者の自家用車での送迎による道路の混雑、小学生の通学への配慮の必要について、保護者に伝え、協力を依頼した。

5. 国際理解教育の推進

留学や留学生との交流を通じ、言語への関心を深め、言語や文化の違いを知ることで、世界に目を向け、広い視野をもって物事を考える生徒を育てる。

高校1年生の夏休み海外研修(ボストン34名、モンレー33名、ハミルトン38名)を実施した。姉妹校オーストラリア・レイブンスウッドに2名、YFU、AFS、EF、ウエストバンクーバーを通じての留学者8名が、充実した時を過ごして帰国した。姉妹校、YFUの留学生受け入れ4名、授業、クラス、クラブ、行事等で交流を深めた。

6. 学校行事による集団作り

学校行事を通して、学級の集団作り、仲間作りを行う。また、学校と保護者とが連絡を密にし、細かな面談の実施によって一人ひとりを大切にしていく。

行事を通して、クラス、学年、中学校、高校、中高全体、各々の規模で、催しや活動を企画していく力、集団を動かしていく力、自分の役割を見つけて貢献する力など、授業では得られない経験と実行力を、一人一人が身につけた。

家庭訪問、学期ごとの個人面談を通して、本人の長所や課題を話し合った。

Ⅲ. 教育の実施体制

1. 生徒の安定的な人数確保のための取り組み

今後とも長期的に続く少子化への対応、大阪府の公立学校改革への対応を検討し、実施する。

また、中学入学者の人数確保を安定的に行っていくため、中学の入試結果の集計や分析を更に充実させ、次年度の入学予定者の把握に役立てると共に、受験生の保護者の学校理解を深める。高校入学者の増加を計るため、公立中学校の訪問等具体的な方策を実施する。

(1) 生徒の安定的な人数確保のため、2013年度中学の募集人員を210名から190名に変更した。

(2) 担当者をきめ公立中学校訪問を実施した。

(3) 学校のHPのリニューアル、更新、とFacebookの立ち上げを行った

(4) 2013年度入学試験について

募集人数	190名								
	前期						後期	総合計	
	A方式(専)			B方式(併)			併願		
	4科	3科	合計	4科	3科	合計			
出願者数	228	35	263	115	31	146	253	66	
欠席者数	4	2	6	4	2	6	200	21	
受験者数	224	33	257	111	29	140	53	45	
合格者数	199	28	227	108	27	135	38	40	
手続前辞退者	55	9	64	89	21	110	31	20	
入学手続者	144	19	163	19	6	25	7	19	
手続後辞退者	14	0	14	2	0	2	0	16	
入学者	130	19	149	17	6	23	7	179	
帰国生入試	2								
入学者	181								

今年度の出願数は前年度に比べ、出願数が162名減、となった。しかし、生徒の学力レベルを下げず、一定のレベルを保つため、前期A方式190点(昨年178.5点)、前期B方式203.75点(昨年191.25点)とした。そのため、入学者は181名となり、募集人数190名より9名少ない結果となった。

出願数の減となった原因は次のようなことが考えられる。

* 大学付属校の囲い込みや提携校などの影響

* プレテストや午後入試という他校の動きの激化

高校について

	普通科文系	普通科理系	英語科	合計
女学院中学出身者	132	36	57	225
高校からの入学者 専願	31	4	13	48
高校からの入学者 併願	10	2	11	23
転入生	1	0	0	1
合計	174	42	81	297

2. 中学・高校の組織改善の取り組み

2012年度から始まる新教職員組織制度が円滑に機能するよう努め、中高一貫教育が更に実のあるものとなるよう中学・高校の組織の活性化を図る。

6年一貫教育を、全教職員で考え推進していくため、すべての教員が中学、高校両方の指導経験を持つことを目指して、教員配置を行うよう努力した。2012年度より主任会を中高合同で行う事とした。

また、今後の教職員の世代交代を見据えて、新任教員が孤立することなく、ベテラン教員の経験から学び、全教職員が主体的に次代の大阪女学院を創造していくために、スタッフ養成研修を企画、検討を行った。

会議の報告のための時間短縮と効率化を目指して、各会議では検討課題を明確にし、話し合う時間を確保するように努めた。

3. 中学・高校としての図書館機能の充実

①蔵書の充実

- a. 学習到達度の低い生徒や家庭状況等において様々な背景をもつ生徒に対応するとともに、生徒の多様な要望に 応えうるよう必要な資料の収集
- b. 職員の教材研究用の資料の収集
- c. 学校行事(遠足、修学旅行、文化祭など)の事前学習や準備に必要な資料の収集
- d. キャリア教育に関する資料の収集
- e. 生徒の学習に役立つ資料の収集
- f. 生徒の知的好奇心を喚起する多様な資料の収集

②利用教育

資料・情報を有効に活用し、学校生活や社会生活を充実したものとするための情報の探し方、入手方法などをウェブ上、印刷ベースで紹介

③図書委員会活動の充実

- a. 文化祭への参加 例:各学年図書委員がテーマを決めて調査したものを展示
- b. 近隣の高等学校の図書委員と交流会をもつ。

④その他

生徒が授業以外に、部活動の資料や趣味の発表資料を作成したり、DVDを観ることが出来るように機器を充実

図書購入予算が年々減少する中、限られた予算を有効に使うことを心がけて選書した。

2012年度は中高合わせて1,926冊購入した。生徒の学習内容に則した図書を中心に、学校行事のための図書、話題の本や中高生向けの楽しい読み物も収集した。また教員からもさまざまな分野の希望図書が寄せられた。

図書館で行う授業は高校2年生の「異文化理解」と高校1年生の「現代文演習」でのプレゼンター

ション準備が定例となった。

修学旅行などの学校行事や課題のために、また季節行事に関する図書リストやバスファインダーを18種類作成、必要に応じてクラスで生徒に配布していただいた。

短期入れ替えの図書展示を月平均3種類ずつ行った。金環日食、ロンドンオリンピック、母の日、ドラマの主人公に関する本など、その時々話題性のあるもので企画した。

大阪府青少年読書感想文コンクールの中学校課題読書の部で、中学2年生の瀬田千夏さんの作品が特選を受賞、全国コンクールで入賞した。

IV. 生徒支援

1. 生徒の自己実現を促す進路指導

生徒が自分の将来への展望を明確にした上で、より良い進路選択ができるよう、指導、助言をする。

- ①年間指導計画に基づいて、必要な情報を生徒・保護者に提供し、生徒の進路意識、学習に対するモチベーションの向上を図る。また、様々な職業やそれに繋がる学問分野についての興味や理解を深める機会をもつ。
- ②実力テストや、学力の推移を調査するテスト等により、生徒の学力や学習・生活実態を調査、分析し、進路委員会、学力検討委員会が職員会議等に生徒の学力向上の為の方策の提言を続けていく。
- ③高大連携を促進する。
- ④資料の整備や留学コーナーの設置、進路相談等、進路室利用の活性化を図る。
- ⑤高校3年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成する。

6年一貫の生徒に対する中学時代の進路活動をどう発展させるかを、5回に及ぶ進路委員会で中心的な課題として取り上げた。そのような中で以下の点について2012年度内に改善することができた。

- * 中学1年生の10月実施の生徒保護者対象進路説明会で、進路部長より、学力推移調査・スタディサポートを採用していることの経緯と意義、クラブや学校生活の重要性、大阪女学院の進路活動の概略、中学1年生の2学期に成績で大きな差が生まれ、そのことが放置されることがないように注意することなどを説明した。
- * 中学2年生の7月実施の生徒保護者対象進路説明会で進路部長より、学習習慣の大切さ、特に土曜3時限後の自主学習の時間を大切にすること、学校生活全体の充実、将来に必要な力など、さらに文系でも数学が大学入試に不可欠になっている現状などについて説明した。
- * 中学校3年生の4月に実施していた中学3年生対象の文系・理系・英語科の説明会の開催時期を、生徒たちに春休みを有効に過ごさせることを目的に、中学2年生の3月に変更して実施した。さらに、3月に卒業した高校3年生の卒業生7名(文系3名、理系2名、英語科2名)が、体験をもとにそれぞれのコースについて説明した。また、それに先立ち、リクルートから講師を招き、「未来に必要な力」と題して、学校での学習が重要であること、単に勉強のみならずクラブ活動や学校行事が重要であるといった内容の講演をしていただいた。

さらに進路委員会では検討を重ね、次年度より、中学2年生の11月に多くの職業分野別に講演を聞くキャリア別進路ガイダンスを実施することを決定した。

また、高等学校では、昨年度より始めた高校1年生の学問分野別進路ガイダンスを発展させて、2年生で大学・短大・専門学校別の進路ガイダンスを、大阪大学、神戸市外国語大学、上智大学をはじめとする49の大学・短大・専門学校が参加し11月に実施した。

その他の事柄では、同志社大学の評定基準のない指定校推薦について、全体の評定が3.3以上であること

という内容の学内基準を設けた。また、進路の HR で配布される進路部からのプリントは、できる限り冊子形式にファイリングしやすいようにした。さらに、5月に実施された高校3年生の生徒保護者対象進路 HR において、ベネッセより海外留学の傾向について説明を行った。また、進路部より本校における海外大学進学の方の基本的な説明の冊子を配布したり、留学についての情報収集にも力を注いだ。

(1)各学年の進路指導実施状況

- 中学1年 生徒、保護者進路説明会(10月)
- 中学2年 生徒、保護者進路説明会(7月)
生徒対象リクルートによる講演(3月)
生徒対象普通科文系・英語科説明会、普通科理系説明会(3月)
- 中学3年 生徒対象普通科文系・英語科説明会、普通科理系説明会(4月)
- 高校1年 第1回 進路説明会(進路選択と教科選択・オープンキャンパス参加準備)(6月)
第2回 進路ガイダンスⅠ(7月)
第3回 生徒進路説明会(進路選択と学習)(10月)
第4回 進路ガイダンスⅡ(11月)
第5回 生徒進路説明会(高校3年の進路状況)(2月)
- 高校2年 第1回 生徒、保護者進路説明会(卒業生の進路状況と教科選択)(6月)
第2回 生徒進路説明会(模試データの見方と目標と教科選択)(10月)
第3回 生徒進路講演会(高3に向けて)(1月)
第4回 生徒進路説明会(高校3年の進路状況)(2月)
第5回 生徒、保護者進路講演会(希望者対象、奨学金について)
- 高校3年 第1回 進路説明会(調査書について)(4月)
第2回 生徒、保護者進路説明会(卒業生の進路状況と進路全般説明)(5月)
第3回 生徒進路説明会(センター試験、AO入試、自己推薦入試説明)(6月)
第4回 生徒進路説明会(指定校推薦入試、調査書請求について説明)(8月始業礼拝後)
第5回 進路ホームルーム(公募制推薦・センター入試出願説明)(9月)
第6回 生徒、保護者進路講演会(入試動向について)(12月)
第7回 生徒進路説明会(センター試験自己採点と小論文説明)(1月)
- 高1～高3 教育実習生による大学紹介と学習のアドバイス(6月)

(2)実力テスト関係

- 中学1年 学力・推移調査(4月)(12月)(3月中学2年生用)
- 中学2年 学力推移調査(12月)(3月中学3年生用)
- 中学3年 学内実力テスト(4月)(11月)、学力推移調査(11月)
- 高校1年 スタディサポート(4月)(9月)(3月高校2年生用)
実力テスト(11月)(1月)
- 高校2年 スタディサポート(4月)(3月高校3年生用)
実力テスト(7月)(10月)(1月)
- 高校3年 実力テスト(5月)(6月)(9月)(10月2回)

(3)普通科文系、普通科理系、英語科においてそれぞれ高大連携訪問プログラムを促進した。

- 文系 神戸女学院大学(人間科学部)、関西学院大学(商学部)、関西大学(社会学部)、同志社女子大学(学芸学部 情報メディア学科)
- 理系 大阪大学(理学部生物学科)、大阪府立大学(生命環境科学部)、神戸薬科大学(薬学部)、理系セミナー
- 英語科 立命館大学(国際関係学部)

- (4) 大学・短大・専門学校・留学資料の整備、進路相談（面談・電話）等、進路室利用の活性化に務めた。
 (5) 高校3年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成した。

・進路先冊子・卒業生からの進路アドバイス冊子配布

- (6) 進路結果の概要は以下の通りである。

合格者数は、国公立大学は現役で31名が合格、また関関同立4大学は現役生で203名であった。国公立現役に関しては、2009年度が25名、2010年度が32名と増加したが、昨年2011年度は19名と大幅に減少した。今年度は31名（京大2名、大阪大6名）と2010年度の32名（京大4名、大阪大6名）に近づくことができた。また、関関同立の現役に関しても2009年度が185名、2010年度が183名であったのに対して昨年2011年度は158名と20%近く減少したが、今年度は203名と大幅に回復した。特に同志社大が2009年度38名、2010年度42名に対して2011年度は25名と大幅に減少したが、今年度は49名と大幅に増加した。

今年度はセンター試験の難化に伴って過年度生が有利となり現役生は苦戦を強いられたと分析されている。また、難関大志願者による大阪市立大学や府立大学への志望の変更、併願の私学の複数受験などにより、国公立中堅大学や関関同立が難化することとなった。そのような状況の中で、人数的には健闘したのではないかと考えている。また、過年度生ではあるが普通科文系から医学部に合格、普通科文系から阪大基礎工への現役合格や現役で阪大2名、市大2名、府大3名など、全体として普通科文系の健闘が大きかった。一方、今年度の厳しい状況下で45名が来年に再挑戦することとなった。

①2013年卒業生 進路状況（最終進路）

	進 学					就職	その他	合 計
	大 学	短 大	専門学校	留 学	予備校	就職	その他	合 計
人数	244	11	4	4	45	0	0	308
%	79.2	3.6	1.3	1.3	14.6	0	0	100
%	82.8							
%	84.1							
%	85.4							
%	100							

②科別進路状況

	大学	短大	その他	合計
普通科	183 (79.9%)	8 (3.5%)	38 (16.6%)	229
英語科	61 (77.2%)	3 (3.8%)	15 (19.0%)	79

③大阪女学院大学・短期大学への進学状況

入試方法	受験者数		合格者数	
	大学	短大	大学	短大
学内選抜（専願）	4	8	4	8
学内選抜（併願）	12	1	12	1
一般（学内選抜以外）	6	1	6	1
Academic Interview	0	0	0	0
合計	22	10	22	10

2. 心身の健康と安全を守るための生活指導と生徒支援

- ①自分自身の心身を健康に保つ方法を身につけるように指導する。そのために保健室・教育相談室（学校カウンセラー）、サポートルームと連携し、生徒・保護者をバックアップする。
- ②授業・学級活動・生徒会活動・クラブ活動・その他の活動が安全かつ充実したものになるように努める。
- ③学校外での生徒の事故やトラブル、迷惑行為等の窓口となり対応する。
- ④不登校や発達障がいなどの支援を必要とする生徒をサポートするために、2010年度より「支援教育委員会」を創設した。この委員会では支援教育アドバイザーと共に、年5回 支援を必要とする生徒への対応と方針を協議してきた。また、サポートルームには指導員に常駐してもらい、支援を必要な生徒にアドバイスを行いつつ、一時的な避難所としての役割を果たしてきた。2012年度より支援教育アドバイザーの仕事を拡充し、さらに深く一人ひとりの生徒を大切に支援教育を目指していく。

家庭や地域の事情、問題から、登校困難に陥っている生徒への個別支援に、学年と生活指導委員会が、協力して取り組んだ。地域の子どもセンター、サポートセンターとも連携を進めた。

支援教育委員会での年間5回の協議を継続し、生徒、保護者、担任、学年をバックアップする体制をつくり、学校全体で取り組む努力をした。

V. 改革・改善

2012年度の課題として、とりわけ以下の項目について重点的に取り組む。

1. 組織の再構築と運営方法の見直しの継続

2012年度から始まる新教職員組織制度が円滑に機能するようにする。また、責任者会議規程、職員会議規程、運営委員会規程を作成し、より充実した教育が行える組織づくりを図る。

- (1)より充実した教育が行える組織にするため、責任者会議規程、職員会議規程、運営委員会規程を作成、施行した。
- (2)校務担当者の役割を明確にし、教科基準持時間を再検討。教科基準持ち時間規程を作成施行した。

2. 中学・高校教務のシステムの統一化

中学校、高等学校の学籍管理、成績管理、時間割管理等のシステム統一をはかるとともに、情報の電子データ化によって、より迅速で広範囲な利用ができるようにする。また、電子データやその他の個人情報を含む書類の保管・管理について、より安全なガイドラインを作成するとともに、そのために必要な機器・備品の充実とともに職員の自覚・協力を喚起する。

中高専任教員のパソコン間でネットワークが構築され、サーバ上でのファイルの共有が本格化した。また、中高の教務部長が一人になったことで、中高全体としての問題点が明確となりその改善に取り組んだ。

3. 2週間時間割の検討

2011年度より2週間時間割を実施してきたが、2012年度改善検討を行う。これによりさらに労働環境を改善し、生徒への教育効果が高められるようにする。

2週間時間割の2年目ということで、生徒・教職員にも定着してきた。生徒には授業時間の確保、教職員には2週間に1度の研修日を保障することを目的にしているが、教職員の労働環境について、さらに改善するための検討をしている。

4. 生徒の学力向上について

中学・高校の生徒自主学习について、自主学习が効果的にできるような支援の検討をすすめる。現在、高校2・3年生の希望者で行っているBB講座受講者の定員の増員をはかる。更に、基礎学力の定着、受験の準備に有効な講座となるよう利用時間の延長等を含めて運用の工夫を行う。

高校1年生には2学期から「土曜講座」、高校2年生には1年間「土曜講座」、高校3年生の文系・英語科 I 型の生徒には1学期間「水曜講座」を実施してきた。

BB 講座については、高校3年生は4月から16名の生徒が受講を始め、平日は19:30までマルチメディア教室を開室して、受講できる環境を整えた。また、昨年度までは、9月から始めていた高校2年生の受講生募集を6月末に行い、7月後半から受講できるようにし、約50名の生徒が受講した。保護者には、2ヶ月に一度受講状況を知らせる報告書を送付した。(Ⅱ. 1-4参照)

5. 新指導要領実施に向けて教育課程の見直しを行う

中学校は2012年度完全実施となる。実質的なカリキュラムの充実をめざす。高校は2013年度実施に向けて本校の教育目標に沿ったカリキュラム改訂を行う。

2013 年度から実施される新指導要領に基づいて検討を重ねて高校カリキュラムの改訂を行った。今後は、大学入試との関係で、生徒のニーズに合わせた変更をするべき科目について、各教科で検討していく必要がある。

6. 留学の充実

「国際教育委員会」と名称を改め、新組織として出発してから次年度は3年目に当たる。従来のYFUの年間留学生受け入れに加え、2012年度からカナダのオタワにあるLongfield Davidson 校と提携校協定を結び、留学生受け入れ(2012年)・送り出し(2013年)を開始する予定である。また、2010年から1ヶ月の短期交換留学としてオーストラリアのRavenswood校との交流を再開しているが、交換留学の規程を見直し、より円滑な交流を図りたい。また、YFU・AFS・EF等々、留学説明会を充実させ、留学希望者の支援をしていく。

2013 年秋に、姉妹提携校である、カナダロングフィールドズデビッドソンセカンダリースクールへ、初めて留学生を派遣することとし、準備を進めている。本校への受け入れは2014 年を予定している。

7. 経費の削減と効率化を図る

2011年度から始まった、大阪府の高校就学支援(年収610万まで授業料無償化、年収800万円未満保護者負担10万円実施による学校負担)を受け、諸経費を見直し、経費の削減と効率化を図る。

健全な経営を目指して、人件費をはじめとした経費の削減と効率化、諸経費の見直しを行った。

- ・コピー機、プリンターを整理し、複合機への変更や印刷機機種統一により経費削減を行った。
- ・印刷物をデジタル配信や HP 閲覧に変更し、紙資源の節約を行った。
- ・節電、節水、省エネに学院全体で積極的に取り組み、経費削減につながった。

8. 施設内全面禁煙の取り組み

生徒、教職員の健康に配慮し、校舎内の喫煙ルームを廃止した。さらに2011年度末には校庭の片隅に一箇所ある喫煙場所も廃止することとし、2012年度には中学校・高等学校において、構内全面禁煙を実施する。この取り組みの最も大きな目的は生徒の受動喫煙の防止であるが、教職員、喫煙者の健康増進にもつながるように、禁煙の呼びかけを続けていくことにしている。

教職員、喫煙者の健康増進のため、禁煙の呼びかけを続けている。

9. 教職員の人権意識の向上

教職員の人権意識を更に高め、授業やクラブ活動での指導はもとより、日常における生徒との関わりの中で、生徒の人権に配慮した指導が十分出来るよう啓発と研修を行う。

以下の日程で、教職員学習会、調査を行った。

6月15日(金) 「災害復校に学ぶ人づくり、まちづくり」

講師 木村幸一さん(復興支援ネットワーク代表)

9月7日(金) 解放・生指・支援教育 下記研修会報告会

10月17日(水) 「アイヌ民族に20年寄り添って」

講師 宇井真紀子さん

11月5日(月) フィールドワーク 香里園・禁野の戦争遺跡めぐり

3月4日(月) 「体罰・キャンパスハラスメントを起こさない、許さない学校を作るために」

講師 関口久志さん(京都教育大学准教授)

3月7日(木) 生徒・保護者、教職員対象に「教職員・クラブコーチなどから生徒へのキャンパスハラスメントに関する調査」を行った。(J3のみ11日)

12月に市立高校の部活動でおこった体罰問題を契機に、3月にハラスメントに関する2つのプログラムを、管理職とキャンパスハラスメント委員会の企画で行った。上記調査は毎年、この時期に行うこととした。

10. 将来の大学・短期大学図書館開館にともなう、中高図書館のあり方を検討

① 現図書館の建物の効率的利用方法

② 中学・高校図書館としての開館予定の目途

③ ネットワークと図書館システム以外の図書館予算、職員配置などの運営体制

夏に図書館棟本館の耐震補強工事を実施。8月10日(金)から9月5日(水)までを完全閉館にして館内の工事を行った。その後、部分的に立入禁止区域があったが開館をしながら工事をすすめ、9月末に竣工。同時に古い空調機を新しく入れ替え、さらに内壁の塗装を施したことで明るい印象になり快適な図書館になった。また10月には天井の照明を蛍光灯からLEDにつけ替え、電力消費量削減にもつながった。

大学図書館建設は今のところ未定で、当分現状のまま運営してゆくことになるのだが、大学も合わせると年間約3千冊ずつ増加する図書の収納に苦慮している。大量の図書の廃棄とともに、閲覧室から書庫への移動作業を毎年行って凌いでいるが、対策が必要である。

利用規則を見直し、2012年4月に改定した。保護者が延滞した場合、大学生と同様延滞金を徴収していたが、保護者の延滞金制度を廃止した。また、英検の問題集などキャリアコーナーの貸出期間は3日間であったのを7日間に延長した。

11. ICT教育の推進

これまでの視聴覚関係教室（LL教室（2教室）とコンピュータ教室（1教室））を2012年度に、全教室コンピュータによる授業が可能なマルチメディア教室（3教室）として、施設設備をリニューアルする。今後、この3教室が、英語、情報を中心として多くの教科で有効に利用されるよう（これまでも、美術、音楽などの授業で利用）、ソフト面での充実をはかっていく。これまでLL教室で利用していた優れた教材のデジタル化、新しい教材の開拓を、長期的に計画し、続けていく。

授業において視聴覚教材の有効利用をするために中学校教室より順次、電子黒板の設置を行う。

2012年度にマルチメディア教室の施設設備をリニューアルし、リスニングのツールとして、生徒一人ひとりにMD3プレイヤーを持たせることとした。すべての授業において視聴覚教材の有効利用をするため、2年前から学年ごとに順に設置してきた電子黒板の設置が、3年目の今年完了した。これによって中学校全学年の教室に電子黒板が設置されたこととなり、中学HR全教室での使用が可能となった。